

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	胆膵がん患者血液中における好中球細胞外トラップ量と血栓塞栓症発症リスクとの関連解析
	研究目的	血栓塞栓症（血管の閉塞）の発症は、がん患者に多い合併症です。血栓塞栓症発症の主要因として血液中の組織因子と呼ばれる血液凝固因子の関与が広く知られていますが、組織因子の測定だけでは発症の予測は困難です。近年、血液中の好中球細胞外トラップと呼ばれる物質が血栓塞栓症の発症に重要であることが分かってきました。そこで本研究では当院の肝胆膵内科にて診断を受けた患者様より提供された血液検体を利用し、好中球細胞外トラップを測定し、血栓塞栓症発症の予測に有用か検証します。
	研究対象者	2013年6月から2016年11月に当センター消化器内科（肝胆膵）にて「胆膵がんにおける血栓症リスクと Tissue factor についての前向き調査試験」に参加いただいた患者様
	研究期間	西暦 2020年7月29日 ~ 西暦 2023年3月31日
利用する試料・情報の項目 （チェック[X]が入った項目を利用します）	<input checked="" type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物（尿・便） <input type="checkbox"/> その他（記載して下さい） <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	小井詰 史朗
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	臨床研究所がん分子病態学部、消化器内科（肝胆膵）
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	該当しない